



Photo by Wajima City, Japan

世界農業遺産

Globally Important Agricultural Heritage Systems (GIAHS)

世界農業遺産(GIAHS)とは

正式にはGlobally Important Agricultural Heritage Systems (GIAHS(ジアス))といひ、国際連合食糧農業機関(FAO、本部イタリア・ローマ)が2002年に開始したイニシアティブです。グローバル化、環境悪化、人口増加の影響により衰退の途にある伝統的農業や文化、土地景観の保全と持続的な利用を図ることを目的に創設されました。これまで世界各地の伝統的農法や、生物多様性が守られた土地利用を保全するため、ペルー、チリ、中国、

フィリピン、アルジェリア、タンザニア等でGIAHSサイトの認定やパイロット事業が展開されており、日本でも2011年に佐渡と能登が先進国として初めて認定されました。

世界農業遺産は、農業や土地利用のみならず、生態系や土地景観、習慣、伝統文化など農業に関連する文化的な要素も含め、次世代への継承を目指します。

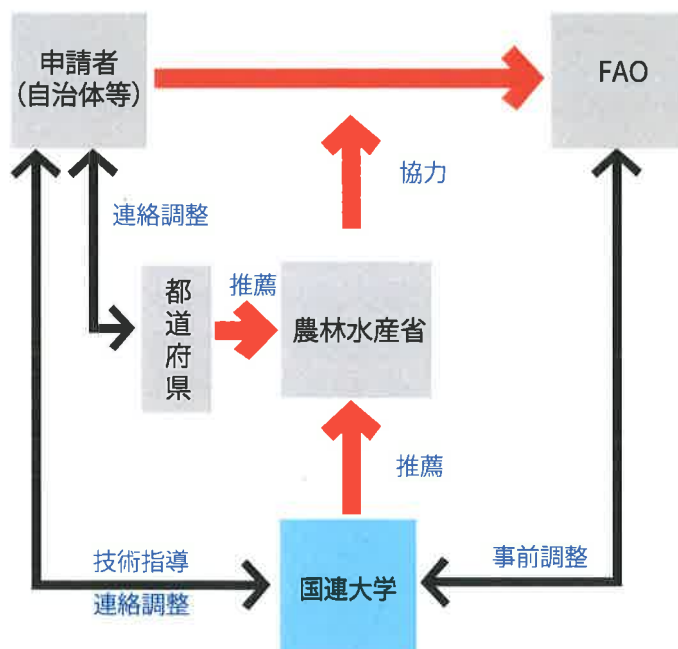
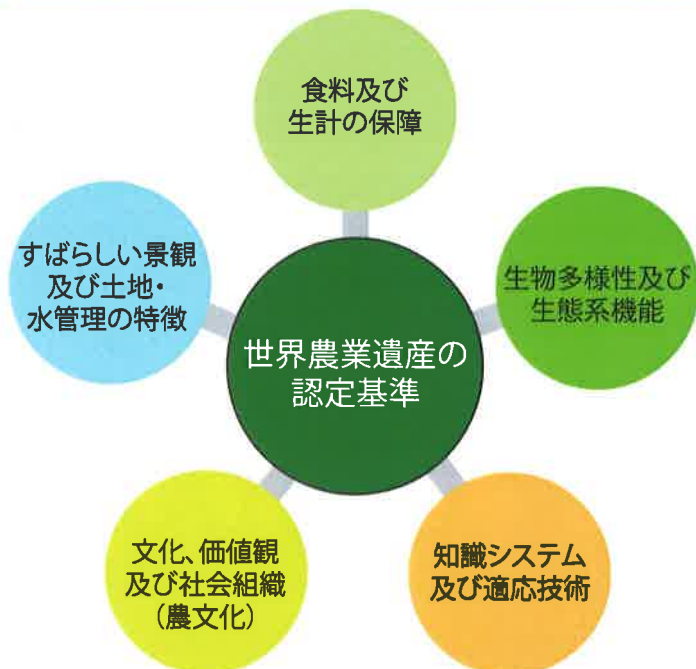
国連大学と世界農業遺産

国連大学では、世界各地での農業の多様性(agrodiversity)の研究成果をもとに、世界農業遺産の発足当初からFAOに協力してきました。日本に本部のある国連大学は、日本の「里山」にいち早く着目し、関係者に世界農業遺産への認定を提案してきました。佐渡と能登の世界農業遺産のFAOへの申請を技術的に支援するとともに、両地区を推薦しました。最近ではアジアを中心に世界農業遺産サイトの連携にも取り組んでいます。

国連大学では、2012年8月から、農林水産省の農林水産政策科学研究委託事業により、「日本における独創的な農文化システムの総合的な評価手法の開発に関する研究」に取り組んでいます。これは、①変化に対するレジリエンスの強化、②多様な主体の参加による自主的な取り組み、③トータルな6次産業化を通じた地域活性化を、農文化システムの評価の基準に取り入れようとするもので、その成果は世界農業遺産の候補の選定にも活かすことができると考えています。

FAOによる世界農業遺産の認定基準

世界遺産認定の流れ(これまでの例)



世界農業遺産 Q&A

Q 世界農業遺産の定義は？

A 「コミュニティとその環境及び持続可能な発展のためのニーズと願望との共適応から進化した、世界的に重要な生物多様性の豊富な卓越した土地利用システム及び景観」(FAO, 2002)

Q ユネスコ世界遺産(文化遺産)との違いは？

A ユネスコ世界遺産(文化遺産)は、遺跡や歴史的建造物などの「不動産」を登録、保護するのに対し、世界農業遺産は、次世代に継承すべき伝統的な農業の「システム」を認定し、その保全と持続的な利用を図るもの

Q 認定のスケジュールは？

A FAOが申請書を受理した後、専門家等への回覧、現地調査を経て、内部審査を行い、原則的には2年に一度開催される国際運営委員会で決定

Q 認定されると農法などに制限が加えられるの？

A 世界農業遺産には農法などの制限はないが、生物多様性を著しく減少させないことが重要。環境保全型農業は世界の大きな流れで、消費者のニーズもあり、その農産物には、世界農業遺産による大きな付加価値が期待

Q 認定されると何か補助が出るの？

A 県や農林水産省などではすでにさまざまな補助事業が用意されており、これらの事業を地域の農業・農村振興にどのように活用するかは、世界農業遺産認定の有無にかかわらず重要

Q 認定されたら、何をすればいいの？

A 認定を契機に農業・農村振興施策の推進を加速、着実に実行するとともに、全国的な視点、国際的な視点をもって、関係者間の連携を強化し、日本と世界のモデルとなる取組を推進



① 「マグリブのオアシス」

アルジェリア・チュニジア

Photo by FAO

アルジェリアとチュニジアにまたがるマグリブのオアシスは、厳しい天候の中、何千年にもわたって発展してきたシステムです。ここでは、かんがい施設によるナツメヤシを中心に、驚くほど多様な果物や野菜が生産されています。



② 「能登の里山里海」

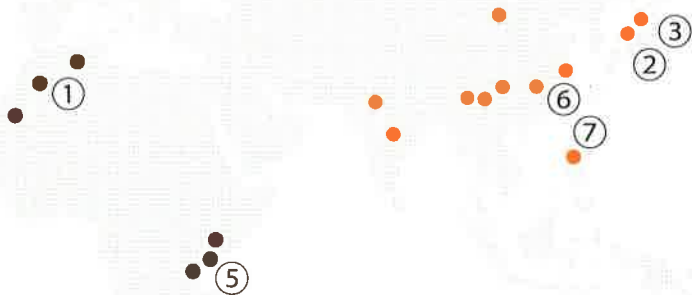
日本

Photo by UNU-IAS OUIK

石川県の能登地域は、丘陵地が大部分を占め、山ひだの少ない平地に谷津田を形成した美しい農村風景が見られます。能登の農林水産業は、棚田やため池で形成される里山の景観と、海女漁、揚げ浜式製塩等里海の資源を活用した伝統技術が受け継がれています。また、「あえのこと」やキリコ祭りなど、農村の暮らしと結びついた風習や文化が多く残っています。

GIAHSの事例

世界農業遺産認定サイト:全19サイト(2013年1月現在)



アフリカ(6)

アルジェリア「マグリブのオアシス」、チュニジア「マグリブのオアシス」、モロッコ「アトラス山脈のオアシス」、ケニア「マサイ族の牧畜」、タンザニア(2):「アグロフォレストリー」、「マサイ族の牧畜」

アジア(11)

中国(6):「アオハンの乾燥地農業」、「トン族の稲作・養魚・養鴨」、「ハニ族の棚田」、「ブーアルの伝統的茶農業」、「水田養魚」、「万年の伝統稲作」、インド(2):「コラプットの伝統農業」、「カシミールのサフラン農業」、日本(2):「能登の里山里海」、「トキと共生する佐渡の里山」、フィリピン「イフガオの棚田」

南米(2)

チリ「チロエ農業」、ペルー「アンデス農業」



⑤ 「マサイの伝統」

タンザニア・ケニア

Photo by FAO/David Beerma

マサイ・ダバド族は、先住民の間に古くから伝わる慣習や伝統知識をもとに牧畜を営んできました。現在も彼らは、民族や地域における経験を活かしながら社会や環境の変化に適応しています。



⑥ 「水田養魚」

中国

Photo by UNU-ISP

水田養魚システムは2千年前の漢王朝の時代から続くシステムです。青田県では、田魚が水田の害虫や雑草を防いだり、代替肥料となるほか、田魚は日々の食料として、また収入源として、この地域でさまざまな役割を担っています。



③ 「トキと共生する
佐渡の里山」 日本

Photo by Sado City, Japan

新潟県の佐渡島は、山や深い森に恵まれ、豊かな生態系が維持されています。金山の歴史が生み出した棚田などトキの餌場となる水田では、冬期湛水など「生きものをはぐくむ農法」とその認証制度を推進しています。また、農業は、能、鬼太鼓などの農村文化の発展につながり、佐渡独特の自然、風景、文化と生物多様性を保全し続けてきました。



④ 「アンデス農法」 ペルー

Photo by FAO/Liana John

ペルーのアンデスは、パレイシヨの主要な原産地です。農家はパレイシヨ畑の周りに溝を掘り、そこに溜めた水を、昼間の日射で温め、気温の下がる夜間に畑に流します。これは、何世紀も続く、海拔4千mの厳しい環境に適したシステムです。

アクションプランの事例

「アクションプラン」とは、世界農業遺産の認定後に実施する「ダイナミックな保全計画」のことで、地域の多様な関係者により、世界農業遺産の保全と持続的な利用について具体的な活動計画をまとめたものです。

地域振興と伝統文化の保存

- 伝統的な祭祀・祭礼や伝統産業の保存と伝承
- 里山里海の景観を保全するための財政的な支援及び規制
- 集落コミュニティ再生と文化の保存
- 世界文化遺産の登録

環境と生物多様性の保全

- 生物多様性の保全・環境再生農業を促進する体制づくり
- 環境再生を支える担い手育成
- 地域資産の評価と地域住民への環境教育の実践
- 専門的知識を有する地域リーダーの育成と取り組みの実践

農林水産業の振興と再生

- 人材の育成や新たな付加価値の創出による特徴的な農林水産業の持続システムの構築
- 地域の協働活動や多様な主体の参画による地域資産の保全管理
- 環境ブランドと持続可能な農林水産業の構築
- 消費者への情報発信と交流促進

情報発信と交流の拡大

- 自然・歴史・伝統文化体験の促進
- 環境活動と企業CSR活動、大学との連携による活性化
- 国際的な認知向上のためのワークショップ等への参加と情報発信
- 交流人口拡大・地域資源の保全のためのグリーン・ツーリズムやイベント等の実施



⑦ 「イフガオの棚田」 フィリピン

Photo by FAO/Mary Jane dela Cruz

フィリピンのイフガオの棚田では、海拔千mの環境に耐える水稲品種が育成され、巧みなかんがいシステムが発展してきました。この棚田は何世代にもわたるイフガオ族の努力の結晶であり、ユネスコの世界遺産(文化遺産)にも登録されています。



⑧ 「チロエ農業」 チリ

Photo by FAO/Liana John

チリの南にあるチロエ諸島は、パレイシヨの原産地の一つとされています。先住民の人々によって、現在も約2百種の地域固有のパレイシヨが生産されており、先祖伝来の慣行は、主に女性により何世代にもわたり口伝されています。